マテリアリティの特定プロセス

詳細情報はこちら
藤倉コンポジットのマテリアリティ

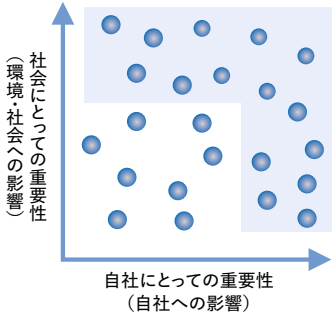
当社は経営理念として掲げている「人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します」の実現に向け、重要な経営課題としての「マテリアリティ」を特定しています。このマテリアリティは当社の中長期にわたるリスクおよび機会の洗い出し、中期経営計画や各種事業計画をはじめ、戦略や方針そして目標やKPIに落とし込むための基礎になるものです。

マテリアリティ特定ステップ

Step1
自社および社会に影響する重要課題の把握・整理

- 国際的ガイドライン（GRIスタンダード、SDGsなど）
- サステナビリティ評価機関（CDP、EcoVadisなど）
- 当社理念、行動指針
- 抽出されたリスク・機会

Step2
課題をテーマ別に分類



サステナビリティ情報開示ガイドラインの開示要請事項やESG評価機関の評価項目などを参考に、抽出した課題をサステナビリティのテーマ別に分類

Step3
テーマの優先順位づけと整理・特定

環境・社会インパクトおよび財務影響を両軸評価し、サステナビリティ統括室、経営会議、取締役会で討議

Step4
妥当性の確認

経営会議・取締役会で審議、取締役会の承認
（定期的な見直し検討を実施（原則として1回/2年））

マテリアリティの特定

特定したマテリアリティ

事業活動による収益基盤と競争優位の確立

1 コンポジットで安心・安全で安定した製品を コンポジットで新たなイノベーションを

安心・安全で安定したものづくり → イノベーション創出 → 知的財産の活用と維持管理 → DXの推進

企業成長と信頼を獲得する経営基盤の強化

2 環境改善で新たな価値創造を
- 気候変動対応
- 循環経済の実現に向けた対応
- 化学物質管理
- 生物多様性

3 人と社会にやさしい組織を
- ダイバーシティ
- エンゲージメント
- 人権尊重
- 労働安全衛生
- バリューチェーン
- 人材育成

4 コーポレート・ガバナンス強化を
- 情報セキュリティ
- 法令遵守とリスク管理
- 適切な情報開示

4つのマテリアリティについて、3～6の課題に細分化し、リスクと機会を洗い出した後、インパクトマテリアリティおよびファイナンシャルマテリアリティによる影響度を特定し、対応する具体的な取り組みを決定しました（P22,23に詳細を記載）

環境認識（機会とリスク）とマテリアリティ

詳細情報はこちら
藤倉コンポジットのマテリアリティ

当社は自身の持続的成長および中長期的な企業価値の向上を目指すことで、経営理念である「人々の安心を支え社会の豊かさに貢献します」を実現します。そのために当社が対応すべき経営上の重要課題として「マテリアリティ」を特定しています。当社はこのマテリアリティに対して積極的かつスピーディーに取り組んでいきます。

重要課題（マテリアリティ）	認識する課題		中長期としてのリスクと機会	インパクトマテリアリティ 影響度の度合い（大中小）	ファイナンシャルマテリアリティ 影響度の度合い（大中小）	対応するSDGs項目
1 コンポジットで安心・安全で安定した製品を コンポジットで新たなイノベーションを	持続可能なものづくり	安心・安全で安定したものづくりの維持と原材料の円滑な供給、生産性向上	【リスク1】納期遅延、加工工程中のムダによるGHG（温室効果ガス）排出、廃棄物発生および資源の浪費	大	小	
			【リスク2】エネルギー費および原材料価格の高騰、為替変動による利益の減少	小	大	
			【機 会】原価低減および生産性向上による利益の増加	小	中	
	技術革新対応	ニーズの多様化に対する自社固有技術の応用、イノベーションの創出	【リスク】イノベーションの欠如による新製品開発の遅れ	中	大	
			【機 会】イノベーション創出による新規開発機会の増加および量産による売上／利益の拡大	大	中	
	知的財産	知的財産の活用および維持管理	【リスク】出願した特許の他社特許抵触による訴訟問題	小	中	
			【機 会】知財マネジメント強化による新製品開発の推進	中	大	
	DX	各種生産性の向上	【リスク】対応費用の増大、DX化や生成AI対応の遅れによる開発競争力の減退	小	大	
			【機 会】業務効率向上、納期短縮、エネルギーの効率利用、廃棄物量削減によるコスト削減／収益向上	中	大	
2 環境改善で新たな価値創造を	気候変動	・GHG排出量の削減、CNの実現 ・災害対応	【リスク1】バリューチェーン全体にわたる多大なGHGの排出	大	大	
			【リスク2】激甚化した自然災害による操業停止、または事前対応による費用負担増	中	大	
			【機 会】GHG排出量削減や災害対策を目的とした開発要請の増加。レジリエンス向上による信頼獲得	中	大	
	循環経済	再資源の活用	【リスク】再資源活用による費用負担増および機能低下	大	大	
			【機 会】廃棄物量削減、GHG排出削減によるコストダウン。再資源活用のための開発要請の増加	小	大	
	化学物質管理		【リスク】環境汚染および使用者に対する健康被害	大	大	
			【機 会】環境規制解消のための開発要請の増加	小	中	
	生物多様性保全		【リスク】GHG排出、環境汚染。対応不備に対するエンゲージメント低下。企業価値の低下	大	中	
			【機 会】新たなビジネスチャンスの創出	小	中	
3 人と社会にやさしい組織を	ダイバーシティ 人権 人材育成	・従業員エンゲージメント ・多様な人材の確保および活用 ・労働安全衛生の維持向上	【リスク】・適正人材不足による生産効率および開発力の低下。業務の属人化、メンタルヘルスの不調 ・多様性人材不足による限定的な事業運営	大	大	
			【機 会】・多様な働き方の実現による従業員エンゲージメント向上および人材の定着 ・労働災害減少による従業員の安全安心向上、雇用維持	大	中	
		バリューチェーン	【リスク】・バリューチェーン全体に対する各サプライヤーの人権侵害および調達不能による部品（製品）の供給停滞 ・新規および既存取引の停止 ・サプライヤーの生産中止、輸送トラブル	大	大	
			【機 会】公正公平な取引から生まれる信頼性の向上	大	小	
4 コーポレート・ガバナンス強化を	ガバナンスとリスク管理の強化	・ガバナンスの強化 ・適切な情報開示、透明性の確保およびステークホルダーとのコミュニケーション	【リスク】コーポレート・ガバナンス強化のさらなる対応要請、情報開示の不徹底による信用低下	大	大	
			【機 会】対応や開示の強化による企業価値の向上			
		法令遵守の徹底化とリスク管理の強化	【リスク】法令遵守の不徹底および脆弱なリスク管理により、全てのステークホルダーに対する信用失墜	大	中	
			【機 会】サイバーセキュリティリスク対策強化およびBCP強化対応による信頼向上（企業価値の向上）			

備考）影響度の度合い
・インパクトマテリアリティ【社会環境への影響（自社のバリューチェーンによって社会に与える影響）】：大（社会に大きな影響を与える）＞ 中 ＞ 小（社会に軽微な影響を与える）
・ファイナンシャルマテリアリティ【社会環境の変化によって自社が受ける影響】：大（会社経営に大きな影響を与える）＞ 中 ＞ 小（財務報告に影響を与える）

マテリアリティとKPI

詳細情報はこちら
藤倉コンポジットのマテリアリティ

	マテリアリティ	第7次中計5つの基本方針との対応	認識する課題	○:経済価値 ●:社会価値 2025年度 実績	2026年度 目標
事業の推進	1 コンポジットで安心・安全で安定した製品を コンポジットで新たなイノベーションを	稼ぐ力の強化 新成長戦略 サステナビリティ推進	安心・安全で安定したものづくりの維持と原材料の円滑な供給、および生産性のさらなる向上	○ サステナビリティ外部評価機関による評価 CDP:気候変動;B(目標;B)、水セキュリティ;B(目標;C) EcoVadis:57点　(目標;65点以上/100点) ○ ISO外部審査および内部監査の実施 ➡ 全て更新 ○ものづくりの安定化 ➡ 生産性向上活動の継続	○ 生産拠点の再検討 ○ サステナビリティ外部評価機関による評価 CDP:気候変動;B、水セキュリティ;B　EcoVadis:65点 ○ ISO外部審査および内部監査の実施【継続】 ○ ものづくりの安定化 【継続】
			ニーズの多様化に対する自社固有技術の応用、イノベーションの創出	○ 研究開発費:1,493百万円 ○ 産学およびスタートアップ企業との連携 ➡ 株式会社テクサーとの資本業務提携によるスマートビル市場への戦略的参入	○ 産学およびスタートアップ企業との連携【継続】 ○ 医療用ゴム部材「QUALIQ」の拡販
			知的財産の活用と維持管理	○ 特許情報共有による新規技術の創出支援 ○ ブランディング強化 ➡ 特にゴルフシャフト	○ 特許情報共有による新規技術の創出支援【継続】 ○ ブランディング強化【継続】
			各種生産性の向上	○ DX活動として継続中	○ DX導入による業務の生産性向上、経営スピードUP
基盤の強化	2 環境改善で新たな価値創造を		GHG排出量の削減、カーボンニュートラルの実現	○ GHG排出量(Scope1・2):22,411t-CO_2(41%削減) ○ 再生可能エネルギー由来電力への切替え ➡ 実施 ○ コンサル導入による省エネ活動(岩槻工場) ➡ 実施	○ GHG排出量(Scope1・2):2019年度比46%以上削減[2030年度まで] ● 2050年までにカーボンニュートラル ○ 再生可能エネルギー由来電力設備導入
			再資源の活用	○ 最終処分率:0.54%(国内のみ)	○ 最終処分率:1%以下(国内のみ)【継続】
			化学物質管理	● 環境負荷物質の使用停止 ➡ 削減。停止に向けて活動中 ● 新規に管理対象物質に指定された場合の調査対応 ➡ 実施中	● 環境負荷物質の使用停止【継続】 ● 新規に管理対象物質に指定された場合の調査対応【継続】
			生物多様性の保全	● 福島県南相馬市鎮魂復興市民植樹祭の参加 ➡ 実施	● 植樹活動の積極参加:少なくとも1回/年 ● ブルーカーボン促進活動の検討
	3 人と社会にやさしい組織を	投資家とのコミュニケーション向上	多様な人材の確保と活用	● 女性採用比率:11.1% ● 新卒者の女性採用比率:11.1% ● 管理職に占める女性比率:2.0% ● 男性社員の育児休業取得率:50.0% ● 障がい者雇用率/法定雇用率以上の雇用人数拡大:2.7%	● 女性採用比率:30.0%【継続】 ● 新卒者の女性採用比率 :30.0%【継続】 ● 管理職に占める女性比率:10.0%【継続】 ● 男性社員の育児休業取得率:40.0%【継続】 ● 障がい者雇用率/法定雇用率以上の雇用人数拡大:2.5%【継続】
			労働安全衛生の維持および向上	● 労働災害件数(休業+不休業+微災):13件	● 労働災害件数(休業+不休業+微災):0件【継続】
			バリューチェーン	● 公的機関、顧客からのサステナビリティ調査回答対応率 :100% ● サプライヤーへのサステナビリティアンケート調査回答回収率: 68%	● 公的機関、顧客からのサステナビリティ調査回答対応率:100%【継続】 ● サプライヤーへのサステナビリティ関連支援 : 5件
	4 コーポレート・ガバナンス強化を	株主還元方針	・ガバナンス強化 ・適切な情報開示、透明性の確保およびステークホルダーとのコミュニケーション 法令遵守の徹底化とリスク管理の強化	● 重大なコンプライアンス違反件数:0件 ● サステナビリティ関連案件の取締役会への報告:2回/年 ● コンプライアンス研修実施率:100% ● サイバーセキュリティリスクをはじめとした各種リスクへの対応 ➡ サイバーセキュリティガイドラインに即した環境の構築(実施中) BCPマニュアルの更新(実施中)	● 重大なコンプライアンス違反件数:0件【継続】 ● サステナビリティ関連案件の取締役会への報告:2回/年【継続】 ● コンプライアンス研修実施率:100%【継続】 ● サイバーセキュリティリスクをはじめとした各種リスクへの対応 ➡ サイバーセキュリティガイドラインに即した環境の構築 BCPマニュアルの更新